

平成31年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名		
01	06	01	03	164090	6次産業化推進事業費		
総合計画	分野	01	しごと	政策	05 農工商観連携の推進		
	施策	02	特産品の開発				
目的	地元の農畜産物を活用した付加価値の高い商品開発のため、加工品開発や販路拡大等の支援を行う。						
対象	市内農業者、市内企業						
意図	特産品の開発と販路の拡大による所得向上						
事業概要	6次産業化セミナー・個別相談会の開催 1,090千円						
	6次産業化志向者を対象としたセミナー・個別相談会を開催						
市民参加の有無	対象外						
	農商工連携推進 457千円 新たな加工品開発等にかかる農商工連携事業補助金の交付等						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託	
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02	
1	セミナー・講習会開催回数	回	計画	6.00	5.00		
			実績	8.00	8.00		
2			計画				
			実績				
3			計画				
			実績				
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02	
1	市の支援により地場産品の高付加価値化に取り組んでいる事業所数	事業所	目標	6.00	6.00		
			実績	6.00	4.00		
2			目標				
			実績				
3			目標				
			実績				
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
6次産業化セミナーでは延べ134名の参加があったほか、セミナー参加者も含めた6次産業化に係る具体的な相談が13件（果実酒製造関係を除く）あり、6次産業化に興味・関心のある事業者は一定程度存在している。しかし、6次産業化にあたっては、農業者のほとんどが商品開発・加工・販売等のノウハウが不足し、すべてを完結することは困難であることから、実際に事業に着手するまでの農業者は少なく、目標値の達成に至らなかった。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	農商工連携による農業者等の所得向上はもとより、多業種の企業の新たな取り組みや戦略展開の支援は、地域経済の活性化に直結するため、市内中小企業の育成の観点からも、市の支援により取り組む必要がある。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	支援制度の更なる周知により、企業の掘り起こしを図ることが可能となる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	必要最小限の補助金交付が事業の主体であるため、削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全ての市内中小企業を対象としており、意欲さえあれば広く制度を活用することができるため、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	農業者等に対して、6次産業化に必要な知識や技術などの習得機会の提供と実際に事業計画の作成方法等に学ぶ機会を提供するため、作業等が忙しくない時期を設定の上、セミナーを開催し、受講者から一定の評価を得たが、新型コロナウイルス感染症の影響により、セミナーを完結することができなかった。
	次年度に向けて	完結できなかったセミナーについて、改めて受講機会を設定するとともに、受講希望者のニーズに合わせた学ぶ機会を提供する。

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	06	01	03	164360	花巻クラフトワイン・シードルブランド化推	
総合計画	分野	01	しごと	政策	05 農工商観連携の推進	
	施策	02	特産品の開発			
目的	ワイン・シードル産地の形成と認知度向上を図るため、ワイン・シードル製造者に対する支援や産地としてのPR活動を行う。					
対象	農業者、ワイナリー、ワイナリー建設志向者					
意図	果実酒の製造・販売による所得拡大と交流人口の増加					
事業概要	いわてワインヒルズ推進協議会負担金等 50千円					
	構成団体負担金					
	ワイン・シードル醸造志向者に対する支援 2,883千円					
	醸造研修受け入れ支援、先進地視察バス運行、セミナー開催、ワイナリー整備等事業補助金 花巻ワインプロモーションイベント開催 4,766千円 首都圏でのワインプロモーションイベントの開催					
市民参画の有無	対象外					
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	セミナー・講習会開催回数	回	計画	6.00	4.00	
			実績	4.00	3.00	
2			計画			
			実績			
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H30	H31	R02
1	新規ワイナリー設立件数	件	目標	1.00	1.00	
			実績	0.00	1.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度			目標値より高い		概ね目標値どおり	目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
平成28年11月29日に国の構造改革特区「花巻クラフトワイン・シードル特区」の認定を受け、農業者等による新規ワイナリーの増加による、農産物の高付加価値化による所得向上、認知度向上を目指して、ワイナリー志向者を対象とした各種セミナーや相談・助言等による支援を継続的に実施している。市内事業所が「花巻クラフトワイン・シードル特区」を活用したワイナリーを整備している。なお、醸造設備の導入にあたっては、市ワイナリー整備等事業費補助金を活用しているほか、事業所スタッフが市主催のセミナーに参加し、醸造技術の向上や販路開拓等に関する講義を受けている。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	高齢化や人口減少等、地方を取り巻く情勢が厳しさを増す中、地域活性化を図るため、地域資源の活用により雇用創出と所得向上、交流人口増加が期待できる果実酒製造を総合的に支援することが有効であるため。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	醸造技術やぶどう技術の習得や加工施設整備に対する支援により、新規ワイナリーの増加の余地はある。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	事業実施のための最低限の予算、人員で実施しているため。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	全ての農業者等を対象とした事業を実施しているため。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	ワイナリー建設志向者のワイナリー設立支援のため、ニーズにそったセミナーを開催し、建設に向け知識を学ぶ機会を提供できた。また、花巻ワインの認知度向上のため、首都圏でプロモーションイベント、現地ワイナリーをめぐるワインツーリズムを開催し、それぞれ参加者から良好な評価を受け、認知度向上につながった。
	次年度に向けて	引き続きワイナリー建設志向者に対して、支援を行うとともに、花巻ワインのプロモーション方法について、過去の実績を検証し、より効果的な事業の構築を目指す。